

モロッコ経済日誌 2013年4月

在モロッコ日本大使館経済班

I. 国内経済

1. 指標等

①2012年の銀行融資動向¹

経済・財政省の発表によると、2012年の銀行融資は、銀行の流動資産の締め付けにより前年より減少した。追加の銀行融資は311億DH（前年は654億DH）。国庫融資、不動産融資及び顧客融資のペースダウンが原因。

②2012年の内国債の増加²

経済・財政省の発表によると、2012年の内国債は3,749億DH、GDPの44.7%に達し、前年より463億DH、14.1%増加した（前年は3,287億DH、41.0%）。

③2013年第一四半期の貿易収支等（モロッコ為替局発表）³

(1)貿易収支

	2012 年第一四半期	2013 年第一四半期	推移
輸入額(CAF)	93,800	88,660	－5.5%
輸出額(FOB)	46,560	43,860	－5.8%
貿易収支	－47,240	－44,780	－5.2%
カバー率(輸出額／ 輸入額)	49.6%	49.5% (エネルギー関連を除けば65.2%)	

(単位:100 万DH)

大半の製品について前年同時期より輸入が減少し、特にエネルギー関連（－13.2%、245.8億DHから213.3億DH）、食料品（－18.1%）、完成品（－5.4%）で顕著。

輸出の減少は特にリン鉱石（－18%、106.1億DHから87億DH）、生鮮品（－9.9%）、メリヤス製品（－9.7%）で顕著。リン鉱石転化産物輸出は14.1%減（74.1億DHから63.66億DH）。輸出増は食料加工業（15.9%）と自動車産業（64.7%）。

(2)その他

在外モロッコ人による送金額は129.9億DHで前年比3.8%減（前年同期135億DH）。海外直接投資額は118.6億DHで32.5%増加（前年同期に89.5億DH）。

¹ エコノマップ（4月5日）² エコノマップ（4月5日）³ エコノマップ（4月17日）

④国際通貨基金(IMF)によるモロッコ指標予測値⁴

IMFが4月に発表した報告書「世界経済の見通し2013年4月」によると、モロッコの2013年の実質GDP成長率は4.5%(2012年:3.0%)、消費者物価上昇率は2.5%(2012年:1.3%)、貿易収支対GDP比は-7.0%(2012年:-9.6%)の予測。

⑤2012年のエネルギー生産指標(経済・財政省発表)⁵

2012年のエネルギー生産指標は前年比9.3%増(2011年は6.5%増)。特に工業部門と一般家庭における電力消費が順調に伸びた(7.4%増)ことが要因。火力(21.9%増)と風力(8.7%増)では発電量が増加したが、水力(15.1%)では減少。

⑥2012年のOCP輸出収益およびリン鉱石価格(経済・財政省発表)⁶

2012年の OCP の輸出収益のうち74%がリン鉱石転化産物によるもの。リン鉱石価格は185ドル/トンで、2011年とほぼ変わらず安定。OCP の輸出収益は2012年12月末時点で482億 DHとなり前年とほぼ同レベルで、リン鉱石輸出が1.7%増、リン鉱石転化産物輸出が1.2%減。

⑦2013年第一四半期のカサブランカ株式市場株価⁷

証券会社 Crédit du Maroc capital によれば、株価指数 Masi および Madex はそれぞれマイナス3.40%(9,040.96ポイント)とマイナス3.28%(7,364.14ポイント)。不動産大手 CGI 社(マイナス25.46%)、Ciments du Maroc(マイナス25.10%)、Holcim(マイナス24.10%)、Lafarge ciments(マイナス8.37%)、Addoha(マイナス6.06%)といった大規模資本のペースダウンが要因。他方、Centrale Laitière(プラス8.49%)、Attijariwafa Bank(プラス0.34%)、BMCE Bank(プラス0.35%)は好調。また、輸送、鉱山関係、自治体サービス関係の指標が上昇し、建設・建設資材産業、持株会社、林業・製紙業が下落した。

⑧2013年第一四半期の中小・零細企業向けCCG保証融資⁸

2013年第一四半期の中小・零細企業向け CCG (Caisse centrale de garantie) 保証融資は合計9億2千万 DH に達し、約380社が融資を受けた(前年同期より2倍)。内訳は加工業(32%)、建設・公共事業(19%)、商業(13%)、観光業(9%)。

⑨2013年第一四半期の観光部門統計⁹

⁴ IMF ホームページ www.imf.org

⁵ エコノマップ (4月5日)

⁶ エコノマップ (4月5日)

⁷ エコノマップ (4月15日)

⁸ エコノマップ (4月25日)

⁹ エコノマップ (4月22日)

今年3月末までの外国人観光客数は前年比8%増、宿泊数は19.2%増(マラケシュでは32%増)。

⑩2013年3月末の一般会計(モロッコ王国一般財務局(TGR)発表)¹⁰

- (1) 一般会計歳出: 609.5億 DH(前年同期には511.7億 DH, 19.1%増)
財政調整費(50.3%増), その他財・サービス費(31.3%増), 人件費(4.5%増), 負債利子(0.9%増)が要因。
- (2) 一般会計歳入: 495.2億 DH(前年同期より3.6%減)
- (3) 一般収支: マイナス114億 DH(前年同期よりプラス224.2百万 DH)
- (4) 公共投資支出: 126億 DH(前年同期には89億 DH, 41.9%増)
特別会計への68億 DHの払込みが要因。
- (5) 一般予算歳出: 788億 DH, 年14.7%上昇
- (6) 一般予算の投資支出: 126億 DH(前年同期には89億 DH, 41.9%増)
- (7) 国庫赤字: 229億 DH(前年同期には27億 DH)
- (8) 国庫特別会計からの収支残高: 11億 DH
- (9) 内国債与信残高: 3,802億 DH(前年12月末より6.1%増)
- (10) 国庫金: 442億 DH(前年12月末より50億 DH 減)

⑪2013年3月末時点の2013年予算案執行状況(経済・財政省発表)¹¹

財政赤字額175億 DH(前年同時期には66億 DH)。政府補助金は38億 DH(25.2%)減少したが、財政収入が28億 DH(5.7%)減少した。

⑫2013年第一四半期の通信市場指標(通信規制庁(ANRT)発表)¹²

相互接続料金統制と新サービス開発により収益が増加。価格下落が携帯電話では22%/年、固定電話では23%/年、インターネット接続では31%/年。

2. 建設・公共事業・インフラ等

①鉄道公社(ONCF)の2012年経営状況¹³

純益215百万DH(前年比2.4%増), 連結ベースの純益は95百万DH(34%増)となった。営業利益は686百万DH(10.2%増), 売上高は38億DH(5.1%増), 旅客数は36千万人(6.1%増), 貨物トン数は17億DH(1%増, ただしリン鉱石輸送は0.8%減)に達した。

¹⁰ エコノマップ (4月23日)

¹¹ エコノマップ (4月25日)

¹² エコノマップ (4月30日)

¹³ エコノマップ (4月1日) 他

2012年に開始した鉄道刷新計画の内容は、1. カサブランカーケニトラ間の増線工事(3線目)によるキャパシティ強化、2. マラケシュセッタ間の完全複線化工事の第一フェーズ、3. カサ・ミタのロジスティック用プラットフォームの倉庫建設。

投資の実施率は80%, 60億DH(2012年予算では74. 7億DHの投資を計上: 全体プログラムに24. 7億, タンジェーカサブランカ間LGVに50億)。

②電話網の質低下(通信規制庁(ANRT)調査)¹⁴

「平均通話成功率(ダイヤル一度目で相手につながり, 2分間切断無し)」が, 2G携帯電話について, 都市部(20都市)97. 32%(2012年末には98. 05%), 高速道路95. 04%(2012年9月27日ー10月23日実施の調査では93. 73%), 国道93. 45%, 鉄道91. 25%(前回調査では84. 86%)。3G携帯電話について, 都市部(6都市)96. 77%。

「完璧な質あるいは許容可能な質の通話率(通話の音質良好)」は2G および3G の各携帯電話について68. 11%と73. 61%。「質が平均以下の通話率(音質が悪いが会話はできる)」は各27. 05%と22. 20%。「質の悪い通話率」は各2. 16%と1. 78%。

固定電話については, 平均通話成功率は96. 47%(2012年9月27日ー10月23日実施調査では96. 77%)。

③2013年公共投資予算の一部凍結¹⁵

4日, 閣議において, 2013年公共投資予算のうち150億 DH の凍結が決定された。エルハルフィ情報大臣兼報道官は, 公的財政の均衡をはかり予算執行計画を改善しその執行を加速化するための措置であり, 先行する210億ドルの投資予算執行を優先するものであると述べた。

④2013年中の都市政策プロジェクト¹⁶

2013年中に23の都市政策プロジェクトを実施する計画。ベンアブドゥラ住宅政策・都市計画・都市政策大臣によれば, 総工費89億DH, 53自治体が対象, 期間は2013年～2017年。経済活動ゾーンの整備, 基本的福祉サービス普及, 地元レベルの設備整備, 道路・上下水道網強化, 設備が不足する地域の改善, 公的スペースと緑地の整備, 歴史的建造物の改修, 観光開発等を計画。他に, 地域レベルの15のプロジェクトの実施も検討中。

⑤アガディール北部にレジャーランド建設¹⁷

16日, カサブランカで開催されたモロッコ観光投資フォーラムにおいて, ハッダド観光大臣, モロッコ観光工学公社(SMIT)社長, エジプトの不動産・ホテル産業グループ Amer Group が, アガデ

¹⁴ Les ECO (4月2日)

¹⁵ エコノマップ(4月8日)

¹⁶ エコノマップ(4月15日)

¹⁷ エコノマップ(4月17日)

ィール北部にレジャーランドを建設する協定覚書に調印。5つ星ホテル、映画館、レジャー施設、海洋公園を建設予定。総工費30億 DH。

⑥Vivendiがモロッコ・テレコム株売却を決定¹⁸

仏Vivendiがモロッコ・テレコム株53%の売却を決定。Etisalat (アラブ首長国連邦)とOoredoo (カタール・テレコム) が買収に名乗りを上げている。 Etisalatはアフリカ11カ国に、Ooredooはアルジェリアとチュニジアにすでに進出している。KT Corp (韓国)も買収を希望していたが断念。仏フィガロ紙によればVivendiは45億ユーロでの売却を希望しており、買収にあたっては30%の株を所有するモロッコ政府の承認が必要。6月に交渉開始し、9月に売却予定。

⑦「サフィ・リン鉱石ハブ(SPH)」建設¹⁹

19日、モハメド6世国王は、サフィSafiの新総合産業ゾーン「サフィ・リン鉱石ハブ(SPH)」建設開始を宣言。OCPグループがサフィで展開する全事業を移転する。総工費3百億DH、敷地面積1300ヘクタール。産業ゾーンのほか人材養成センターや研究所も設置され、テクノポールとしての機能も持つ。同時に港湾施設も新たに整備される(工費30億DH, 取扱量14百万トン/年)。2017年8月からはONEEの火力発電所への石炭供給、2020年からはリン鉱石と転化産物の輸出にも利用される。

⑧エル・ジャディーダ(El Jadida)ーサフィ(Safi)間高速道路建設²⁰

21日、モハメド6世国王は、エル・ジャディーダ(El Jadida)ーサフィ(Safi)間高速道路建設開始を宣言(延長143キロ, 総工費48億DH)。国とモロッコ高速道路公社間のプログラム契約(2008年～2015年)の一環で、アラブ経済社会開発基金(FADES)と欧州投資銀行(BEI)が出資。Doukkala-Abda地方の観光・産業・鉱山分野の発展がねらい。工事はEl JadidaーJorf Lasfar(モロッコ企業), Jorf LasfarーSidi Smail(モロッコ企業), Sidi SmailーOualidia(トルコ企業), OualidiaーSafi(トルコ企業)の4区間に分けて行われる。

3. 農業・漁業

①2014年第一四半期の沿岸・伝統漁業の漁獲高(モロッコ漁業公社(ONP)発表)²¹

前年同時期に比較して33%上昇した(13. 8億 DH, 249, 816トン)。

②メクネスにて第6回農業会議開催²²

¹⁸エコノマップ (4月26日)

¹⁹エコノマップ (4月22日)

²⁰エコノマップ (4月22日)

²¹エコノマップ (4月15日)

²²エコノマップ (4月24日)

23日、モハメド6世国王とボンゴ・ガボン大統領の参列下、メクネスにて第6回農業会議の開会式が行われ、以下4つの協定が締結された。1. 砂糖関連産業の開発・レベルアップのプログラム契約、2. 採油植物栽培関連産業の開発・活性化のプログラム契約、3. 灌漑用水節約プロジェクトにおける太陽エネルギー利用ポンプの普及促進協定、4. SAMADイニシアティブ(OCPによる肥料供給状況の改善)実施のパートナー協定。

③2012年のモロッコの海産物輸出²³

ブリュッセルで行われたヨーロッパ・シーフード見本市で、2012年のモロッコの海産物輸出が前年の362,960トンから471,249トンに増加したと報告された。主な輸出先はEU(64.8%)とアフリカ(15.45%)(アジアは7.6%)。

4. 産業

①ヌアサー(Nouaceur)航空産業開発地区(Midparc)第一フェーズの始動²⁴

第一フェーズの63ヘクタールが7月か8月に完成予定。第二フェーズは62ヘクタール、2015年に始動予定。同地区の総工費は743百万DH、1万5000人の雇用を創出する見込み。進出を決めている企業のうち、85%以上がフランス系(約100社)。

②Addohaグループがコートジボワールに工場建設²⁵

モロッコのAddohaグループ(不動産・セメント製造)がコートジボワールにセメント包装用袋の製造工場建設を決定(工費12百万DH。Addohaと国際的製紙・パッケージ会社グループMondiの共同出資)。工場で生産される12百万の袋のうち、10百万がコートジボワール国内向け、残りは輸出向け。現在のセメント総生産量50万トンに2014年には百万トンに増やす。コートジボワールで建設中のAddoha最初のセメント製造工場は今年6月に稼働予定。

③モロッコ航空とエールフランスがジョイントベンチャーを拡大²⁶

11日、モロッコ航空(Royal Air Maroc)とエールフランスは、2009年創設のジョイントベンチャーAerotechnic Industries(ATI)による事業を次世代ボーイング737(B.737NG)のメンテナンスにも拡大する旨発表。ATIはカサブランカ・モハメド5世空港の産業ゾーンにおいて、ヨーロッパ、アフリカ、中東で運航されるA320とB.737NGのメンテナンスにあたる。

④OCPとヨルダン・リン鉱石会社の協力強化²⁷

²³エコノマップ(4月26日)

²⁴エコノマップ(4月4日、5日)

²⁵Les ECO, エコノマップ(4月10日)

²⁶エコノマップ(4月15日)

²⁷エコノマップ(4月15日)

12日、ムーレイ・ラシード王子(国王の弟)がヨルダン・リン鉱石会社社長と会談。同社長は、OCPとの協力関係強化に関するヨルダン国王からモハメド6世国王宛書簡を手渡した。

⑤Cosumar社資本の27.5%をWilmarに売却²⁸

Cosumar 社資本売却プログラムの第一フェーズとして、王室系SNI(Société nationale d'investissement)社は、Cosumar 社資本の27.5%をシンガポール系農産物加工業グループ Wilmar に売却した。第二フェーズでは同社資本の26.5%が複数のモロッコ企業に売却され、54%が Cosumar 社とモロッコ系企業の所有となる。第三フェーズではSNI社所有資本の約10%をモロッコ人に売却予定。最終的には Cosumar 資本の70%以上がモロッコ人の所有となる。

⑥2012年のCiments du Maroc社の収益²⁹

23日、モロッコ第二のセメント製造販売 Ciments du Maroc 社は、2012年の収益が6億 DH と発表(前年は9.53億 DH, 37%減少)。

5. エネルギー・電気・水

① 地下資源開発への投資状況³⁰

ベンハドラ炭化水素鉱山公社(ONHYM)総裁によれば、モロッコの地下資源は豊富であるが、開発に向けた投資が不十分であり、地質調査から掘削まで地下資源開発プロセスの資金不足が問題となっている。モロッコのシェール・オイル埋蔵量は500億バレルで世界第6位と推定されている。

②太陽エネルギー・新エネルギー研究所(IRESEN)による太陽光(InnoPV)および風力発電(InnoWind)研究プロジェクト募集³¹

98の大学・研究所・産業関係者から34プロジェクトの応募があった。2プロジェクトが採用される予定で、予算総額4千万 DH。今年6月には太陽熱発電(InnoTherm III)分野の研究プロジェクト募集が始まる。

③Taza風力発電所プロジェクトに関する地元住民への情報提供・意見交換³²

6日、電力・水道公社(ONEE)および日仏コンソーシアム(三井物産およびEDF Energie Nouvelle(EDF子会社))が、地元住民との第一回会合を実施(全3回)。社会・環境インパクト調査の結果を受け、環境管理計画が実施される予定。

国家エネルギー戦略では、2020年には42%の電力を再生可能エネルギーでまかなうことを目

²⁸エコノマップ (4月17日) 他

²⁹エコノマップ (4月24日)

³⁰ エコノマップ (4月3日)

³¹エコノマップ (4月9日)

³² エコノマップ (4月9日)

指している。そのうち風力発電を14% (2000MW) にするため、現在の風力発電量(1000MW)を二倍に増やす「風力発電統合プログラム」が実施されている。

6. その他

①TVA未払い分の証券化³³

29日、第二回国家財政会議で実施された記者会見の場でバラカ経済・財政大臣は、TVAの未払い分を譲渡可能な証券に変換する可能性を示唆。この措置が実施されれば、モロッコ経済に130億 DH が投入される見込み。中小企業の不況に対応するねらい。

³³ エコノマップ（4月30日）

II. 諸外国等との関係

1. 外国政府との関係

①フランソワ・オランド・フランス大統領によるモロッコ公式訪問³⁴

(1) カサブランカ訪問(3日)

モハメッド6世国王とオランド大統領が会談し、特に教育・人材育成分野における協力関係重視で合意。工業生産・再生可能エネルギー・新テクノロジー・農漁業の近代化・インフラ整備を両国共通の成長目標とした。

同日、同国王と同大統領は19の二国間協力協定の署名式を主宰。そのうち経済に関わる協定は次のとおり：農業・農村開発・農産物加工に関するパートナーシップ・協力協定；海産物の付加価値強化の協力に関する議定書；モロッコ・グリーン計画支援(2千万ユーロ)継続合意書；雇用・能力開発プログラム支援(5千万ユーロ)合意書；電力・水道公社(ONEE)による上水道(飲料水)パフォーマンス改善プログラムへの借款(3千万ユーロ)協定；モロッコおよびフランス企業のサブ・サハラ進出支援の合意書；Zenataエコ・シティ整備への民間借款(150百万ユーロ)協定；Moroccan Financial BoardとParis Europlace間の協定；タンジェーケニトラ間高速鉄道(LGV)の標識および通信設備供給契約；LGV維持管理におけるフランス鉄道公社SCNFとONCFのJV合意書；同LGVの「カテナリー吊架／基礎工事」設備供給契約；同LGVの「変電所とカテナリー吊架電源」設備供給契約；Taza風力発電所に関する協定。

同日、同国王と同大統領は Médiouna 浄水場の落成式を主宰。

(2) ラバト訪問(4日)

4日、モロッコ経団連(CGEM)とフランス国際経団連(MEDEF-International)共催のビジネス・フォーラム(テーマ「モロッコ-フランス:持続的パートナーシップのための新しい協力関係」)閉幕にあたりオランド大統領は、モロッコは発展途上国ではなく新興国であり、パフォーマンスの優れた企業を有していると述べた。また、フランス企業によるモロッコ投資については、今後は大企業だけでなく、中小企業の進出も促進すべきだとし、さらに、アフリカ大陸における商業分野のパートナーとしてのモロッコの重要性を強調した。

②アマラ商工業・新技術大臣とリビア産業大臣との面談³⁵

2日、トリポリにて、アマラ商工業・新技術大臣はリビアの al-Fitouri 産業大臣と面談し、2012年締結の二国間協力協定のうち、産業分野の諸措置(繊維産業、鉱山開発、食品加工業)の実施を加速することで合意。

³⁴ エコノマップ(4月4日、5日)

³⁵ エコノマップ(4月4日)

③輸送・設備分野におけるトルコとの二国間協力強化³⁶

7日、トルコのイスタンブールにて、ラバハ設備・運輸大臣はトルコのイルディリム設備・輸送大臣と会談し、特に道路・航空・鉄道・海洋輸送の分野における両国協力関係を法制面で強化することで合意。

④アマラ商工業・新技術大臣とスウェーデンの商業大臣付国務長官との面談³⁷

10日、アマラ商工業・新技術大臣とラバト訪問中のオオム・スウェーデン商業大臣付国務長官が面談し、工業分野の二国間協力の展望、商取引・投資分野における協力の強化で合意。本訪問にはスウェーデンから Scania, Ericsson, ABB 等の代表者も同行。

⑥モロッコとアラブ首長国連邦の拡大経済会合³⁸

11日、モロッコとア首連の拡大経済会合がアブダビで開かれ、アハヌッシュ農業・海洋漁業大臣が参加。両国、特にアブダビ首長国との経済関係強化の必要性を確認。現在、不動産、観光、工業、エネルギー、航空輸送、製菓業、化粧品、広告の分野で21のアブダビ企業がモロッコに投資している。モロッコ農業における二国間協力発展でも合意。

⑦モロッコ・リトアニア間二重課税防止協定³⁹

19日、ワシントンにて、モロッコ・リトアニア間の二重課税防止協定が調印された。

⑧EU－モロッコ間「自由貿易進展・完全化協定(ALECA)」締結交渉開始⁴⁰

22日、EUとモロッコとの間で「自由貿易進展・完全化協定(ALECA)」締結交渉が開始された。2000年より特定の商品について関税が廃止されているが、これをサービスや公共事業等の分野にも広げる。競争力と知的財産保護の強化、貿易障壁の軽減・簡素化措置、衛生・病虫害防除措置、エネルギー貿易も対象となる。2011年12月に同交渉実施が決定された国々(モロッコ、エジプト、ヨルダン、チュニジア)で最初に交渉開始。

⑨第7回モロッコ・モーリタニア高等合同委員会開催⁴¹

21日～24日、ヌアクショットで開催された同委員会には、モロッコから外務・協力大臣、設備・運輸大臣、エネルギー・鉱山・水利・環境大臣、雇用・職業教育大臣、若者・スポーツ大臣の他、ビジネス関係者と地方行政幹部が参加。旅客・貨物輸送、道路貨物輸送、高等教育、科学研究、都市・住宅政策、国土整備、水・衛生設備、環境保護、持続可能な発展、女性・家族の状況改善、

³⁶エコノマップ（4月9日）

³⁷エコノマップ（4月11日）

³⁸エコノマップ（4月15日）

³⁹エコノマップ（4月22日）

⁴⁰エコノマップ（4月23日、24日）

⁴¹エコノマップ（4月25日、26日）

保健の分野に関する11の協定、5つのプログラム、1つの合意覚書に署名。二国間協力においては、石油・ガス、若者とスポーツ、行政と企業向け職業教育、中小企業設立に関する研修について合意。また、受刑者移送に関する協定、文化協力とイスラム関連行政に関する各プログラム、海洋・港湾分野の合意覚書の略式署名も実施。両国の合弁会社設立や共同投資を促進し、二国間の貿易を発展させる意向も確認。

⑩ロシアとの海洋漁業分野における二国間協力協定の法案化⁴²

2月14日に署名された海洋漁業分野におけるロシアとの二国間協力協定に関する法案が採択された。水産資源保全・開発と、大西洋におけるロシアの漁業条件を定める。

2. 経済協力

①世銀による 285 万米ドルの借款⁴³

3月29日、ハッカウイ連帯・女性・家族・社会開発大臣は、身障者のアクセシビリティ条件改善のためのアクション・プログラム実施を発表。特に、マラケシュ市におけるアクセシビリティ対策、技術的支援、関係者の能力強化、キャンペーン活動を計画。

③スペインとの雇用・職業訓練分野の二国間協力プロジェクト⁴⁴

9日、スハイル雇用・職業訓練大臣は、スペイン国際開発協力庁(AECID)の支援による政策強化プログラム実施を発表。労働市場調査能力の強化・児童労働の防止・労働監督官の能力強化・体制面支援が中心テーマ。実施期間は18ヶ月、予算は約560万DH。

④世銀による借款および資金供与⁴⁵

16日、世銀はモロッコに対する2つの借款および資金供与を実施：経済競争力強化(160百万米ドル借款)、モロッコ・グリーン計画支援(203百万米ドル借款)、「連帯・総合的モロッコ農業(ASIMA)」計画支援(6.44百万米ドル供与)。

⑤ベルギーによる資金供与⁴⁶

17日、「Souss-Massa-Draa 地方のサフランおよびナツメヤシ関連産業開発」と「3つの水道用水貯水局の制度・実用面支援」計画に対し、ベルギーが資金供与協定に署名(17.5百万ユーロ)。

⑥第8回モロッコ国際農業サロン(SIAM)の開催⁴⁷

⁴²エコノマップ (4月29日)

⁴³エコノマップ (4月1日)

⁴⁴エコノマップ (4月10日)

⁴⁵エコノマップ (4月17日)

⁴⁶エコノマップ (4月18日)

⁴⁷エコノマップ (4月26日、29日)

24ー28日、メクネスで開催された第8回モロッコ国際農業サロン(SIAM)において、モロッコは以下の二国間協力協定および覚書に署名した。

- ・ドイツとの農業分野(農業協同組合と企業設立の技術的支援)における2協定
- ・ベルギーとの農業分野(連带的・持続的農業・農村経済の開発, 食料品の安全強化)における1協定
- ・コンゴ民主主義共和国との漁業・農業分野(水産物, 漁業関係研究, 水産物加工・販売等)における1協定と1覚書
- ・ポルトガルとの農業分野(食品加工業, 農山村開発等)における1覚書

3. その他

①イスラム諸国会議機構(OIC)の発表⁴⁸

16日、イスラム諸国会議機構(OIC)は2015年までに加盟国間の貿易を20%増加させる旨発表。非関税障壁措置の改善, 特に共通窓口と輸送の簡易化を目指す。加盟国間の貿易特惠システムの一環で、4年の間に、関税を10%削減, 輸出書類数を10から5, 輸出の日数を31. 3日から23. 1日, 輸入の日数を34から25日, 輸出コストを1541. 7ドルから580ドルにそれぞれ削減することが目標。

②ラバハ設備・運輸大臣のトルコ訪問⁴⁹

6日、イスタンブールを訪問したラバハ設備・運輸大臣は両国経済関係における公民パートナーシップ政策(PPP)の重要性を強調。トルコ・ビジネス・産業者連盟(TUSKON)メンバーと会談し、モロッコの魅力を紹介した。

③「コートジボワールにおけるモロッコビジネス評議会」設立準備⁵⁰

10日、駐アビジャン・モロッコ大使主宰の「コートジボワールにおけるモロッコビジネス評議会」設立会合にモロッコのビジネス関係者が参加。コートジボワール当局との協議を容易にし、両国の協力関係を官民連携により促進する(特に貿易, 観光産業, 食品加工業, 建設, 公共事業の分野)。

⁴⁸エコノマップ (4月17日)

⁴⁹エコノマップ (4月8日)

⁵⁰エコノマップ (4月15日)